

記念講演 I

資本主義から志本主義へ

名 和 高 司

京都先端科学大学 教授
一橋ビジネススクール 客員教授

目 次

1. なぜ今、パーパス経営か (Why)
2. パーパス経営の実例 (What)
3. パーパス経営の実践 (How)

1. なぜ今、パーパス経営か (Why)

これからの社会や企業経営は、従来の資本主義（キャピタリズム）からパーパスを主軸とした「志本主義（パーバシズム）」に変わると私は考えている。キャピタリズムにおけるミッション（使命）は、どちらかというと外から与えられ、義務感が先行しているのに対し、パーパスは心の奥底から湧き出てくるものである。したがって私はパーパスよりも志という言葉が好きで、パーパス経営とは志に基づく経営である。志は日本人が大好きな求道の精神であり、道を究める人たちの心をパーパスと呼んでいる。

コリン・メイヤー教授（オックスフォード大学サイド経営大学院（ビジネススクール）初代学院長）の*Prosperity: Better Business Makes the Greater Good*（2019年、宮島英昭監訳、清水真人・河西卓弥訳『株式会社規範のコペルニクスの転回：脱・株主ファーストの生存戦略』、東洋経済新報社、2021年）という本が最近のパーパスの議論に火をつけた。メイヤー教授は、企業の役割はバ



ーパスの実現であると主張し、次の3点を批判している。第一は、フリードマン・ドクトリンである。ミルトン・フリードマンが提唱した新自由主義という名の下の株主第一主義が間違いの発端であるとしている。第二は、幸福主義である。自分や自分の周りが幸せならばそれで良いという幸福主義は利己的だとし、幸福ではなくProsperity（繁栄）が大事だといっている。第三は、コーポレートガバナンスについてである。彼は、コーポレートガバナンスはパーパス実現の仕組みであり、パーパスをしっかり守る株主が、会社と一緒に新しいProsperityを作るべきであると主張している。このためアンカー株主の必要性を説き、一部の少